

# 留学報告書

記入日:2014年5月10日



所属学部／研究科・学科／専攻	商学部
留学先国	カナダ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ヨーク大学 現地言語: York University
留学期間	2013年9月～2014年5月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	Liberal arts & professional Studies <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2014年5月1日
明治大学卒業予定年	2016年3月
<b>留学先大学について</b>	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input checked="" type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月～12月 2学期:1月～5月
学生数	50,000人
創立年	1959年

留学費用項目	現地通貨 (カナダドル)	円	備考
授業料		円	
宿舍費	5,000	500,000円	
食費	2,500	250,000円	
図書費	200	20,000円	
学用品費	100	10,000円	
教養娯楽費	100	10,000円	
被服費	200	20,000円	
医療費	0	0円	
保険費	500	50,000円	形態:
渡航旅費	2,000	200,000円	
雑費	200	200円	
<b>合計</b>	<b>10,800</b>	<b>1,080,000円</b>	

## 渡航関連

渡航経路: 成田-ロサンゼルス-トロント

渡航費用

チケットの種類	エコノミークラス
往路	11 万円
復路	9 万円
合計	20 万円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

エクスペディア

## 滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)

学生寮

2) 部屋の形態

 個室 OR  相部屋(同居人数 )

3) 住居を探した方法:

大学の WEB サイト

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

自分の滞在先にはキッチンがなかったので、自炊は出来ず外食のみだった。健康的にはキッチンのある寮を選んだ方が良くと思う。

## 現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

 利用する機会が無かった  
 利用した:

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

友達に相談していた。国際事務室はあるので、そこへ相談に行くのも一つの手だと思う。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

対策はしなかった。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

キャンパス内には wifi が通っていたのでインターネットには苦労しなかった。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか? (例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地で銀行口座を開け、そこからお金をおろしていた。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

耳かき

## 進路について

1) 進路

 就職  進学  未定  その他:

2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

なし

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例：留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) もし留学したいのであれば、就職活動を理由に断念するのはもったいない。社会へ出る前にやりたいことは素直にやるべき。また日本という排他的な文化圏から一回飛び出し、働く前に世界を見ることは価値あることだと感じた。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

### 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to international politics	国際政治入門
科目設置学部・研究科	political science
履修期間	9月～5月
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義
授業時間数	1週間に90分が2回
担当教授	Elizabeth Dauphinee
授業内容	国際政治学の入門編。120分の講義で学んだ内容を60分の少人数制授業(チュートリアル)で理解を深めることが出来る。基本的な政治学の理論から入り、世界で起きている様々な問題を理論ベースで考え、読み解く授業。成績評価はチュートリアルへの参加態度、3回のエッセイ、期末テスト。特にエッセイの比率が高い。今現在世界で起きている出来事(貧困、紛争、経済危機)を政治的視点から考察し、グローバルゼーションとは何かを考えて行く面白い授業。
試験・課題など	期末試験一回、エッセイ3回
感想を自由記入	自分が取った授業の中で一番面白かった。単に政治的な話しをするのではなく、経済、文化、環境、ヒト、といった様々な視点から分析・考察することで、一つの問題から色々なことが見えてきて興味深かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Economic policy in developing countries	発展途上国の経済政策
科目設置学部・研究科	Economics
履修期間	1月～5月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Alena Kimakova
授業内容	マクロ経済の授業。教科書に沿ってマクロ経済の理論をカバーしつつ、実際の途上国のケースを見ながら経済政策を学んでいく。過去に途上国で実行された経済政策の成功例、失敗例を分析し、理論と照らし合わせていく。
試験・課題など	中間試験、エッセイ一回、プレゼンテーション一回、期末試験
感想を自由記入	3時間の講義で休憩がないため、授業後は脳みそがスポンジ状態になる。ただ授業内容は面白い。経済政策、公共経済などに興味がある人にはおススメの授業だと思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
British Empire from 1600 to present	近現代イギリス帝国史
科目設置学部・研究科	History
履修期間	9月～5月
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Michael H Michie
授業内容	イギリス帝国の歴史。産業革命まで遡り近代世界を作り上げた巨大帝国の歴史を時代を追って勉強する。講義では題材に合った映画を見ることも多々あった。産業革命、奴隷貿易、帝国主義、植民地政策などイギリス帝国の繁栄と衰退を同時に勉強する。
試験・課題など	エッセイ3回、2週ごとの意見シート、期末試験
感想を自由記入	映画を使って学ぶということをしたことがなかった自分にとって、とても新鮮な講義だった。内容自体も興味深いものが多く、奴隷制廃止は人道的結果ではなく、経済的な結果によるものであるという分析は面白かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Urban environmental justice	都会・環境正義論
科目設置学部・研究科	Geography
履修期間	9月～12月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Katherine MacDonald
授業内容	主に環境問題や都会化といった現代の社会問題に存在する人種、階級間の不公正に焦点をあて議論していく授業。たとえば、工場が密集している地区の人種比率を見て、people of color(有色人種)はどれほどいるのか?を見て、それが公正な状況であるのかなどを授業中に議論したりする。
試験・課題など	エッセイ3回、期末試験
感想を自由記入	授業中にグループワークがあり、毎回発言する機会がある。周りがどんどん発言していく中、自分は全く話せずにいたが、途中から勇気を出してどんどん議論に入っていた。内容は社会の不条理と向き合うものなので、とても暗いが、生徒の勉強意欲が一番分かる授業でとても刺激的だった。

留学に関するタイムチャート
---------------

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験，期末試験，その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2012年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	TOEFL の勉強 派遣先大学の調査
10月～12月	TOEFL の勉強、受験 志望動機書作成、面接準備 出願、面接
2013年 1月～3月	派遣決定 派遣先大学のホームページで授業で取りたい授業を調べる
4月～7月	寮を決める 英語の勉強 バイトしてお金を貯める
8月～9月	出発準備 英語の勉強 バイトしてお金を貯める 出発
10月～12月	オリエンテーション 秋学期始まる ポستنキャリアフォーラム 期末試験
2014年 1月～3月	冬休みに旅行へ行く 冬学期始まる 中間試験
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	2年の夏まで留学など考えてもいなかったのですが、自分の意志で行動し、困難に遭遇しながらも全力で挑戦できる何かを探していたことが一つの理由でした。自分のやりたいことを行動に移し、最後まで成し遂げるといった経験を積みたかったからです。また、就職して社会へ出る前に、日本とは違う世界を自分の目で見たいと感じたことも留学の決め手です。生まれてから約20年間、日本という異質で排他的な文化圏で生活してきた自分にとって、留学は”世界”を感じる絶好のチャンスだと強く思い、決意しました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	留学期間が始まるまでに、とにかく英語力を極限まで高めようと努力することが何より大切だと思います。どれだけ日本で勉強しても、生の英語は全く違うので、出発までいかに英語へのモチベーションを高められるかが重要だと感じました。あとは、ガイドブックや友達などを通して、現地の交通機関などの基本的な情報を事前に調べておくことをおすすめします。空港からキャンパスまでの移動手段くらいは把握しておく、現地到着後が楽になるかもしれません。
この留学先を選んだ理由	派遣先のヨーク大学は約155カ国からの留学生を受け入れており、国際色豊かな大学であることが一つの志望理由です。多文化を尊重する大学でなら、多様性を肌で感じることもできるだろうし、より”世界”が見えると思ったからです。特にカナダへ行きたかったわけではなく、多種多様な文化が交差するトロントという地に魅力を感じました。
大学・学生の雰囲気	キャンパスには中東系からアジア、北欧、アフリカ、南米系まで、多種多様な人種で溢れかえっています。各々が違うバックグラウンドを持っているからこそ、お互いの違いを尊重し合う雰囲気が常にあり、とても刺激的な環境でした。ヨーク大学は留学生を多く受け入れているため、世界中に友達ができるのも魅力の一つだと感じました。
寮の雰囲気	寮では定期的にイベントが開かれており、友達作りの環境は十分に整っていました。各ハウスにはコモンルームがあり、そこでパーティーなども行われていました。また、コモンルームには常に誰かしらいるため、勉強で疲れた時はそこへ行き、友達と会話をしてストレスを解消することもできます。
交友関係	友達は自分から積極的に行かない限りできません。それは世界共通で、自分に興味を持ってもらうためには、自ら勇気を出して話しかけることが重要だと感じました。友情は言語の問題ではないので、英語を理由に消極的になるのは非常にもったいないです。私の場合はとにかく自分から進んで話しかけ、相手に興味を持つことで、たくさんの友達を作ることができました。パーティーへ行ったり友達とお酒を飲んだりすることで、より一層友達との仲が良くなったような気がします。
困ったこと、大変だったこと	最初の方は現地人の英語の早さについていけず苦労しました。話す前に相手が何を言っているかがわからないと会話にならないため、留学開始直後も単語とリスニングの勉強をしていました。
学習内容・勉強について	私は国際政治学や経済政策の授業を履修していました。どの授業も課題やリーディングの量は膨大でしたが、その分内容が面白かったため、飽きることはありませんでした。とりわけ上記の2つの授業は国際政治経済という分野で内容的に繋がっていたため、自分なりに双方の内容をリンクさせることでより興味を持つことができました。授業のレベル自体はオーソドックスでしたが、英語がネックということもあり、ついていくのは大変でした。しかし、わからない箇所は友達や教授に聞くことで乗り切ることができました。重要なのは自身の学ぶ姿勢であり、それに伴った行動ができていれば、授業についていけなくなるということはないと思います。
課題・試験について	授業一つ当たり平均3つのエッセイが課されていたので、常に何かのエッセイに取り組んでいました。それに加えて中間試験や期末試験があるので、平日の昼間から遊べるような日は少なかったです。試験の形式は授業によって違いますが、基本的には選択問題やショートエッセイを書かせる試験が多かったと思います。用語の定義や理論を覚えておけば、しっかりと対応できるレベルだと感じました。
大学外の活動について	友達にクリスチャンがいて、その影響で日曜日に教会へ行ったりしていました。宗教について考える良いきっかけにもなったと思います。また、教会に来る年配の方とお話できたのも良い経験でした。大人と話す方がしっかりと英語を使わなければいけないので、英語の勉強にもなったと思います。
留学を志す人へ	少しでも留学をしたいと考えている人は、どんな方法であれ実現させるべきだと思います。学生時代に留学するという経験は、若い感性で世界を感じることができるという点で非常に貴重です。楽しいことばかりでなく、辛いことも含めて留学は素晴らしい経験だと思うので、是非諦めずに挑戦してもらいたいです。自分の道は自分で決められることを忘れずに、やりたいことは精一杯やり遂げましょう。

## 一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中		友達と ジムへ行く	授業の予習			ロンダリーで 洗濯	教会へ行く
	友達とカフェ でくつろぐ			政治学の チュートリアル	講義の予習		
午後		自習	友達とカフェ でくつろぐ	午前中の 授業の復習		友達と フットボールを して遊ぶ	友達と ダウンタウン へ出掛ける
	夜の講義の 予習	バドミントン クラブの 活動に参加		講義	講義		
夕刻	講義			ジムへ行く	講義		
夜	キャンパス 内のパブへ 飲みに行く			授業の予習・ 復習	寮内にある 卓球や ビリヤードで 遊ぶ	ダウンタウンへ 飲みに行く	